

安藤康夫（あんどうやすお）さん（82歳・男性）は、75歳から認知症が発症し、初期段階では家族が家で面倒を見ていた。3年が過ぎたころから認知症が進行し、日常生活に支障をきたすようになり、妻の介護疲れも見られたため、特別養護老人ホームへ入所をした。本人は穏やかに施設で暮らしているが、時折不安そうな表情を見せながら、車いすで移動をしている。他の御利用者様との関係性は良好で、施設での生活を楽しまれている姿も見られる。（発表時間 7分以内）

健康状態 心身機能 身体状況	脳血管性認知症 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）：A2 要介護度 4 認知症日常生活自立度：IV 高血圧症、糖尿病（手指のこわばり、拘縮が見られる）、失語症
活動	・利き手：右 ・座位：適切な介助・ポジショニングであれば、着座や座位の保持が可能。 ・移動：車いすを使用している。認知機能低下のため、指示に従うことが難しい場合がある。 ・移乗：支えがあれば数秒なら立位を維持することができるが、下肢筋力は低下している。 ・食事：食事の摂取には常に見守りが必要。目の前に食事があっても、食べ方を忘れたり、飲み込みに時間がかかることがある。 ・入浴：一部介助を必要とする。 ・排泄：介助があればトイレでの排泄が可能。リハビリパンツを使用。便意・尿意はある。 ・更衣：ボタンを留めることや、服を選ぶことには手助けが必要。下衣着脱時は転倒の危険性があるため注意が必要。たまに衣服の着方が分からなくなることがある。 ・整容：髭剃りは自分で可能だが、剃り残しが見られる。その他一部介助を必要とする。 ・コミュニケーション：会話の内容は理解できるが、言葉が上手く出てこないことがある。 ・睡眠：夜間は眠れている。
参加	・施設のレクリエーションには参加されている。 ・特にやることがないときには、居室でテレビを観て過ごすことが多くなっている。
個人因子	・定年までは中学校の教員をしていた。土日は部活動が忙しく、子どもと過ごす時間は少なかったが、年に1回の家族旅行は必ず行っていた。 ・元々、活動的な性格で社会参加を大切にしていた。 ・定年後の趣味はゴルフ、園芸（現在は体力の低下により、これらの活動が制限されている）
環境因子	・妻と長女は一緒に住んではないが、長女の運転で月に1度程度は面会に来る。 ・妻は心配性である。 ・長女は結婚して、妻が一人で暮らす家や施設の近くに住んでいる。しかし子どもが受験生であるため頻回には面会に来られない。 ・長男と次女は結婚して、市外に住んでいるため面会はほとんどない。 ・スタッフと家族が連携してケアを行っている。